



～生ごみから土づくり～

ある日のおやつのお出来事です・・・使った食器などを給食室に返していた職員から「今日のおやつ苦手な子が多く、残ってます」と。残飯入れを見せてもらうとたくさん入っていました。

そこで年長に集まってもらい、残飯を見せて話をし、みんなで考えてみました。

最初は「自分じゃない」と他人事でしたが「もったいない」「僕も食べられなくて捨ててしまった」

「給食の先生がせっかく作ってくれたのに」「苦手な時は最初に減らすといい」などたくさんの意見が出ました。このことがきっかけで、残さず食べようと少しずつ意識が出て、年長から年中、年少に声をかけたりするようになりました。

これはチャンスだね！ということで、職員や子ども達からいろいろなアイデアを出し合い、以下のような取り組みを始めました。

- ① 給食の残飯は子ども達が計測する。（給食室で出る野菜の皮や、給食の残飯などをコンポストで粉碎乾燥させる＝これは職員が行っています）
- ② 粉碎されたものを子ども達が室内活動ですり鉢でする
- ③ すったものを、たい肥として土と混ぜ合わせる
- ④ 元気な土を使って植物、野菜などを育てる
- ⑤ 地域の方などに、たい肥を配る（今後、行っていく予定です）



「すり鉢ですりやすいのはこれ！」と自分の経験から教え合ったり、毎日残飯を計測することで「今日のスイカの食べ方みんな上手だね」「今日はこの前より残った物が少ないよ」と発見があったり。

「先生、たくさん集まったから園庭の土と混ぜない？」と言ってくるなど、子ども達の考える力、吸収する力、発見する力に感心させられる程です。

「命をいただいている」ことを知り、食事を無駄にしない＝残したご飯はゴミになるが、食べたら自分の体の栄養になる＝これを私達大人が伝え、子ども達と一緒に考えていきます。

一人ひとりの意識を変えることが持続可能な社会への第一歩です。

「もったいない」という気持ちを忘れず、命につながる食べ物や、そのためのエネルギーを大切に
して、食品ロスを減らしていきましょう！

（武田）

